

N T Tグループ弓道連盟の歩み

- 昭和 41 年 10 月 15 日 ○日本電信電話公社弓道連盟結成
会 長 松田正一（東京統制電話中継所）
副会長 浦井 武（横浜統制無線中継所）
副会長 佐坂一正（九州通信局資材部長）
- 昭和 44 年 8 月 10 日 ○役員改選
会 長 松田正一（元技術局調査役）
副会長 浦井 武（東京無線通信部）
副会長 傍島忠義（電気通信研究所企画調査室調査役）
副会長 西 敏雄（九州通信局経営調査室長）
- 昭和 45 年 11 月 28 日 ○電電公社東伏見弓道場「信和館」落成（東京都保谷市）
○役員改選
会 長 松田正一
副会長 傍島忠義
副会長 川久保正人（九州通信局経営調査室長）
- 昭和 48 年 9 月 8 日 ○役員改選
会 長 松田正一
副会長 傍島忠義（研究開発本部調査役）
副会長 村上文章（九州通信局土木工事部長）
- 昭和 49 年 9 月 8 日 ○役員改選
会 長 松田正一
副会長 傍島忠義（研究開発本部調査役）
副会長 小野文明（九州通信局土木工事部長）
- 昭和 50 年 1 月 1 日 ○連盟組織改編
通信局単位の支部制導入
○役員改選
会 長 橋本真澄（理事 東京電気通信局）
副会長 小野浄治（データ通信本部第四データ部長）
- 昭和 50 年 4 月 1 日 ○新組織発足
九支部（東京、関東、信越、東海、北陸、近畿、中国、九州、本社）
○役員改選
会 長 橋本真澄（前公社理事 現日本コムシス(株)顧問）
副会長 小野浄治（技術局次長）
- 昭和 50 年 9 月 28 日 ○全国弓道大会実施要領制定
団体戦－3名1チーム
個人戦－2部制（オープン戦）
- 昭和 51 年 9 月 26 日 ○役員改選
会 長 植田義明（保全局長）
副会長 小野浄治（データ通信本部副本部長）
- 昭和 52 年 9 月 25 日 ○規約改正
支部制改編により全面見直し
○東北支部承認（10支部となる）
- 昭和 53 年 12 月 20 日 ○四国支部承認（11支部となる）
- 昭和 55 年 9 月 21 日 ○役員改選
会 長 小野浄治（東海電気通信局長）
副会長 松田亮一（横須賀通研宅内機器研究部長）
- 昭和 56 年 5 月 2 日 ○第 32 回全日本弓道選手権大会（京都）遠的の部に於いて野中秀治錬士五段
（近畿通信局保全工事事務所）優勝－前人未踏の射詰 60 本で決定！！

- 昭和 56 年 9 月 13 日 ○全国弓道大会実施要領改正
団体戦－1 支部 5 名 1 チーム（決勝は 1 チーム 3 名のトーナメント制）
- 昭和 58 年 9 月 24 日 ○役員改選
会 長 松田亮一（横須賀通研宅内機器研究部長）
副会長 寺西 昇（施設局次長）
- 昭和 60 年 4 月 1 日 ○民営化－日本電信電話株式会社 N T T 誕生
「N T T 弓道連盟」と名称変更
○N T T 弓道連盟規約制定
○中央電気通信学園支部・鈴鹿電気通信学園支部承認（1 3 支部となる）
○N T T 全国弓道大会実施要領制定
団体戦－1 支部 5 名 1 チーム（トーナメント制）
個人戦－男子 1 ～ 3 部、女子の部の 4 部制
- 昭和 60 年 5 月 3 日 ○第 36 回全日本弓道選手権大会（京都）錬士の部に於いて野中秀治錬士六段
（関西支部）優勝
- 昭和 61 年 5 月 2 日 ○第 37 回全日本弓道選手権大会（京都）遠的の部に於いて野中秀治錬士六段
（関西支部）優勝
- 昭和 62 年 1 月 21 日 ○日本スポーツ賞 野中秀治錬士六段（関西支部）受賞
- 昭和 62 年 5 月 2 日 ○第 38 回全日本弓道選手権大会（京都）遠的の部に於いて野中秀治錬士六段
（関西支部）優勝
- 昭和 62 年 10 月 5 日 ○役員改選
会 長 寺西 昇（N T T 理事、東北総支社長）
副会長 大谷紀幸（電話事業サポート本部総合企画担当部長）
副会長 豊川一男（関東支部長、関東設備建設総合センタ土木部長）
- 昭和 63 年 5 月 2 日 ○第 39 回全日本弓道選手権大会（京都）遠的の部に於いて野中秀治錬士六段
（関西支部）優勝－3 年連続 5 回目の優勝！！
- 昭和 63 年 9 月 26 日 ○役員改選
会 長 寺西 昇（N T T 取締役、東北総支社長）
副会長 大谷紀幸（電話事業サポート本部総合企画担当部長）
副会長 会田暁生（関東支部長、関東設備建設総合センタ土木部長）
- 平成元年 9 月 25 日 ○役員改選
会 長 寺西 昇（N T T 取締役、電話事業サポート本部長）
副会長 大谷紀幸（N T T 理事、経営企画本部整備部長）
副会長 会田暁生（関東支部長、関東設備建設総合センタ土木部長）
- 平成 2 年 10 月 8 日 ○役員改選
会 長 寺西 昇（N T T 常務取締役、電話事業サポート本部長）
副会長 大谷紀幸（N T T 理事、研究開発技術本部副本部長）
副会長 田中篤夫（関東支部長、関東設備建設総合センタ土木部長）
- 平成 3 年 6 月 8 日 ○第 38 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・第四位
- 平成 3 年 6 月 8 日 ○第 26 回大会から団体戦優勝支部に社長杯を授与する（持ち回り）
- 平成 3 年 9 月 16 日 ○役員改選
会 長 大谷紀幸（N T T 理事、研究開発技術本部副本部長）
副会長 和才博美（N T T 東京支社副支社長）
副会長 田中篤夫（関東支部長、関東設備建設総合センタ土木部長）
- 平成 3 年 10 月 26 日 ○第 11 回全日本実業団遠的の大会に於いて N T T 東京支部・優勝
- 平成 3 年 11 月 19 日 ○第 11 回全日本実業団遠的の大会で N T T 東京支部・優勝の活躍で社長表彰受賞

- 平成 4 年 9 月 12 日 ○全国大会実施要領一部改正
男子一部、三部及び女子の部を 6 射の的中制に変更
男子二部の決勝戦射詰めは最初から 24 cm 的使用に変更
○第 27 回大会から男子二部優勝者に N T T 弓道連盟会長杯を授与する（持ち回り）
- 平成 4 年 9 月 14 日 ○役員改選
会 長 大谷紀幸（N T T 移動通信網(株)常務取締役総務部長）
副会長 和才博美（N T T 東京支社副支社長）
副会長 田中篤夫（関東支部長、関東設備建設総合センタ土木部長）
- 平成 5 年 6 月 13 日 ○第 40 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・準優勝
- 平成 5 年 10 月 31 日 ○役員改選
会 長 大谷紀幸（N T T 移動通信網(株)常務取締役総務部長）
副会長 和才博美（N T T 本社人事部次長 人材開発室長兼務）
副会長 田中篤夫（関東支部長、関東設備建設総合センタ土木部長）
- 平成 6 年 6 月 12 日 ○第 41 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・準優勝
- 平成 6 年 9 月 11 日 ○役員改選
会 長 大谷紀幸（N T T 移動通信網(株)常務取締役総務部長）
副会長 和才博美（N T T 本社人事部次長 人材開発室長兼務）
副会長 田中篤夫（関東支部長、関東設備建設総合センタ土木部長）
○N T T D o C o M o 支部発足加盟（13 支部体制）グループ企業として初参加
- 平成 7 年 10 月 8 日 ○第 30 回大会開催。本大会から当連盟オリジナルメダル・楯を製作導入
○北海道及び N T T プリンテック 2 支部発足加盟
尚、中央・鈴鹿両研修センタ支部は組織化図れず休部
また、中国支部は事務局扱い（13 支部体制）
- 平成 7 年 10 月 9 日 ○役員改選
会 長 和才博美（N T T 企画室次長）
副会長 赤羽根靖隆（N T T マルチメディアビジネス開発部担当部長）
副会長 小柳隆司（N T T 関東設備建設総合センタ基盤設備部長）
- 平成 8 年 9 月 15 日 ○弓道連盟創設 30 周年記念第 31 回大会開催
○全国大会実施要領一部改正
団体戦前年優勝、準優勝支部のシード権及び敗者復活戦の廃止
個人戦男子一部、三部及び女子の部を四ツ矢 2 回 8 射に変更
○役員改選
会 長 和才博美（N T T 理事企画室次長）
副会長 赤羽根靖隆（N T T マルチメディアビジネス開発部担当部長）
副会長 小柳隆司（N T T 関東設備建設総合センタ基盤設備部長）
- 平成 9 年 6 月 8 日 ○第 44 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・第四位
- 平成 10 年 9 月 ○第 49 回全日本弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・第四位
- 平成 10 年 9 月 12 日 ○N T T グループ弓道連盟に改称。規約の一部改訂。役員の名称を監事と理事とし、各支部 2 名とした。常任理事を新設。会員名称で準会員を廃止し、正会員に統合した。
会員資格の拡大。
○大会実施要領の一部改訂
個人戦は、全て三色的使用の点数制とした。男子一部を弐段以下、男子二部を参段以上、男子三部を 60 歳以上とした。
- 平成 10 年 9 月 25 日 ○第 49 回全日本男子弓道選手権大会（天皇盃）N T T 四国支部名越徳夫
教士七段三位入賞
- 平成 11 年 6 月 13 日 ○第 46 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・第五位
- 平成 11 年 10 月 30 日 ○支部名の変更 本社支部改め中央支部

- 平成 12 年 6 月 11 日 ○第 47 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・第三位
- 平成 12 年 9 月 23 日 ○大会実施要領の一部改訂
個人戦を霰的使用の的中制に戻した。射行は団体戦と男子三部を座射とする。
○支部の改編並びに新支部の追加
データ支部の発足。プリンテック支部と B J 統合し、B J 支部に改編。
○役員改選
副会長 佐々木崇 (東日本 相互接続推進部長)
副会長 山田隆持 (西日本 設備部長)
- 平成 12 年 10 月 23 日 ○第 49 回全日本実業団大会に於いて N T T 東京支部・第三位・第五位・第六位
- 平成 13 年 6 月 10 日 ○第 48 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・第四位
- 平成 14 年 8 月 31 日 ○役員改選
副会長 真田康臣 (東日本 総務部長)
- 平成 15 年 9 月 6 日 ○大会実施要領の一部改訂
個人戦男子二部を四ツ矢 2 回 8 射に変更
- 平成 16 年 6 月 13 日 ○第 51 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・第五位
- 平成 16 年 9 月 11 日 ○役員改選
会 長 山田隆持 (持株会社 副社長)
副会長 片山泰祥 (西日本 基盤サービス部長)
○北陸支部が活動休止
- 平成 16 年 10 月 27 日 ○第 59 回国民体育大会弓道競技に於いて B J 支部藤原真、データ支部頼政秀幸が東京都代表で近的競技優勝
- 平成 17 年 6 月 12 日 ○第 52 回全日本勤労者弓道選手権大会に於いて N T T 東京支部・準優勝
- 平成 17 年 9 月 23 日 ○役員改選
副会長 前田幸一 (コミュニケーションズ コンシューマ&オフィス事業部長)
- 平成 17 年 12 月 22 日 ○第 55 回日本スポーツ賞 (読売新聞社制定) 弓道競技優秀選手を関西支部野中秀治が受賞
- 平成 19 年 9 月 9 日 ○B J 支部が今大会 (第 42 回 NTT-G 大会) をもって解散
- 平成 20 年 9 月 13 日 ○役員改選
会 長 片山泰祥 (持株会社 取締役)
副会長 高島宏一 (西日本 ネットワーク部長)
- 平成 20 年 10 月 19 日 ○第 56 回全日本実業団弓道大会に於いて N T T 東京支部・優勝
- 平成 21 年 10 月 31 日 ○北陸支部が活動再開
- 平成 22 年 3 月 31 日 ○N T T 東伏見弓道場「信和館」閉館
- 平成 22 年 5 月 1 日 ○N T T 四国支部名越徳夫教士八段が範士に昇格
- 平成 23 年 10 月 30 日 ○第 6 2 回全日本弓道遠的選手権大会に於いて N T T 関西支部野中秀治教士七段が優勝
- 平成 24 年 9 月 8 日 ○役員改選
副会長 中川裕 (東日本 代表取締役副社長)
- 平成 25 年 8 月 24 日 ○名越賞を創設、全国大会個人総合優勝者への授与を決定
- 平成 26 年 9 月 6 日 ○役員改選
会 長 島田明 (持株会社 取締役 総務部門長)
副会長 阪本作郎 (東日本 取締役 営業推進本部長)
副会長 黒田吉広 (西日本 取締役 ネットワーク部長)

平成 27 年 10 月 3 日 ○役員改選
副会長 關 雅夫 (東日本 取締役 営業推進部長)
○JIP (日本電子計算機) 支部発足加盟

平成 29 年 10 月 15 日 ○第 65 回全日本実業団弓道大会に於いて N T T 東京支部・優勝

平成 30 年 9 月 1 日 ○役員改選
会 長 北村 亮太 (持株会社 取締役 経営企画部門長)
副会長 鳥越 隆 (東日本 取締役 営業推進本部長)

令和元年 9 月 14 日 ○役員改選
副会長 伏屋 敦弘 (東日本 取締役 営業推進本部長)
副会長 猪俣 貴志 (西日本 取締役 デジタル改革推進本部長)